

やまと 民俗への招待

鹿谷 繁

県内に伝わるおかげ踊りについて、奈良市田原地区と山添村菅生(いすみ)は、も県指定無形民俗文化財の様子を前回、前々回と紹介した。伊勢神宮への信仰は、伊勢講という形で県内全域に広がっており、集落の入口などによく見られる「太神宮」と刻んだ単体の灯籠や、「おかげ」の文字を刻んだ灯籠が各地に残されている。祭り歌われた伊勢音頭も県内全域に流布していた。神社に奉納された絵馬の中にも、こうした伊勢への信仰を表現したものがある。広陵町大塚の於神社には、万延元(1860)年9月に奉納された「伊勢参宮下向」絵馬が残されている。伊勢参りから帰った9人の男を村人が迎える賑やかな様子を描いている。正式に伊勢講連中として参宮する

村公認の本参りがこれで、非公式なのが「抜け参り」だった。大和高田市片塩町の龍王宮(石園座多久虫玉神社)には、参宮の通り道となった横大路村の人々が、お伊勢参りする人々に草鞋や食べ物を接待する様子を描いた絵馬が奉納されていた(県指定後、放火により消失)。

慶応4年9月の絵馬、さ(1868)年9月の3面、同町屏風の杵築神社に、慶応4年(1868)年3月と6月、慶応4(1868)年9月の3面、同町屏風の杵築神社に、慶応4年9月の絵馬、さ(1868)年3月在

伴堂の天保2年3月在銘絵馬には、太鼓、三味線、胡弓、鉦の囃子方と、揃いの衣装で腕を振り上ぐ分かる。

伴堂のおかげ踊り絵馬—天保2年3月、部分①屏風のおかげ踊り絵馬—慶応4年、部分(いずれも筆者撮影)



①伴堂のおかげ踊り絵馬—天保2年3月、部分①屏風のおかげ踊り絵馬—慶応4年、部分(いずれも筆者撮影)



屏風の絵馬は剥落が少なく明瞭で、「太神宮」の幟や「おかげ」と記した御幣の傍らで、傘を手にした頭取りの歌で手踊りする者、両手に扇を取りつて踊る者、さらに赤いシデを手にして踊る子供

が、神社境内で大勢の子供たちが2列に並んで踊っている様が描かれている。

屏風の絵馬は剥落が少なく明瞭で、「太神宮」の幟や「おかげ」と記した御幣の傍らで、傘を手にした頭取りの歌で手踊りする者、両手に扇を取りつて踊る者、さらに赤いシデを手にして踊る子供が、神内

踊りを絵馬に記録

表
(奈良民俗文化研究所代

で、盆地中央部の三宅

町や川西町には、地元の

糸井神社に、慶応4年の

絵馬と併せて5面が奉納

されている(いずれも県

で、背中に御幣を挿

した子供や若者24人の踊

馬には、背中に御幣を挿

かれている。慶応4年は

かかれている。慶応4年は

姿が描かれ、「奈良吉・

重助・音蔵・幸助」など

すべての名前が墨書きされ

ている。同年6月在銘絵

馬には、背中に御幣を挿

道となりた横大路村の人々が、お伊勢参りする人

々が、お伊勢参りする人

々が、お伊勢参りする人

々が、お伊勢参りする人

々が、お伊勢参りする人

道となり